

# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.212 2017.9.1

## 姉妹館提携30周年

旧開明学校校舎と旧開智学校校舎



ともに国重要文化財の校舎、愛媛県西予市の旧開明学校校舎と松本市の旧開智学校校舎は、昭和62年(1987)に姉妹館提携を締結しました。今年、提携30周年を迎えたことを記念し、両施設の所蔵資料を交換しての記念特別展を開催します。

### 重要文化財旧開明学校校舎・重要文化財旧開智学校校舎 姉妹館提携30周年記念特別展

[会期] 平成29年10月6日(金)～12月6日(水)

#### 特別展「重要文化財旧開明学校校舎収蔵資料展」

日本一の教育掛図コレクションをはじめ、開明学校が所蔵する教育資料を展示します。

[会場] 重要文化財旧開智学校校舎 展示室

[料金] 通常観覧料(大人300円、小中学生150円)

#### 特別展「いつの時代も～ヨク マナビ ヨク アソベ～」

旧開智学校校舎所蔵資料を中心に、昔の小学校の遊びやしつけの様子を紹介します。

[会場] 宇和先哲記念館 2階企画展示室(愛媛県西予市)

[料金] 無料

#### もくじ

誌上博物館◇開智学校と教育勅語……………2-5

博物館TOPICS◇馬場家住宅開館20周年記念特別展「馬場家住宅20年の歩み」…6

企画展「若き君たちへ～校歌 空穂からの贈りもの～」……………7

子親忌展

秋季企画展「城と館が語る中世の松本」

博物館TOPICS◇9月21日は「松本市博物館の日」です!……………8

ガイドコーナー はんでんぼく

## 開智学校と教育勅語

戦後70年を過ぎ、多くの人にとって戦争が実感を伴わない歴史となった現在、日本の各地で戦争の記憶を残すための取り組みが行われています。松本市においても、松本まるごと博物館の連携事業である「戦争と平和展」をはじめ、戦争の記憶を次代につなぐための様々な事業を展開しています。

今回の誌上博物館では、教育史をテーマとする重要文化財旧開智学校校舎の視点から、戦争に関する資料を扱ってみたいと思います。とり上げるのは、近代の教育史において最も象徴的な存在である「教育勅語」です。

### 1 教育勅語とは

教育勅語－「教育ニ関スル勅語」は、明治23年（1890）に、首相山縣有朋の立ち合いのもと、明治天皇から文部大臣芳川顕正に下付された勅語です。自由民権運動への危惧を背景に、行き過ぎた文明開化への反省とともに伝統的な道徳の復活を目指す保守派と、伊藤博文を中心とする近代市民倫理を是とする開化派の論争の果てに誕生しました。教育勅語は他の法令と異なり、大臣の副署を伴わない形式をとったため、明治天皇の教育に関する意志表明という性格が付随しました。このため、“天皇の意志に疑問を呈するなど不敬である”といった考え方を生み、絶対性を持ちうる要素を当初から内在していました。

戦前の天皇制下における日本の教育の真髄を示す文書として、聖典ともいふべき存在となっていた教育勅語ですが、当初から神格化された絶対性を持っていたわけではありませんでした。明治30年頃から文部省内で教育勅語の改訂や追加が検討されていたことからわかるように、日清戦争後の急速な社会変動の中で勅語の実効性に疑問が持たれるようになりました。教育勅語の聖典化は、日露戦争後の「戊申詔書」や関東大震災後の「国民精神作興ニ関スル詔書」、太平洋戦争下の「青少年学徒ニ賜ハリタル勅語」といった教育詔勅に補完されることで可能になったと指摘されています。

教育勅語制定の中心人物である井上毅は、制定作業中に交わした山縣有朋への書簡の中で勅語の性格について、「今日の立憲政体の主義に従へは君主ハ臣民の良心の自由ニ干渉せず」、あらゆる宗教的・哲学的・政治的な争いを起こさせないように、「注々として大海の水の如く」と表現し

ています。教育勅語は、教育の淵源が天皇を中心とした日本の「国体」にあることを宣言し、そこに忠孝を中心とする伝統的な諸徳目をからめることで教育の淵源に普遍性をもたらす効果はありましたが、全体を通して論理の解釈をいかようにもすることができる曖昧さも持っていました。そのため、当初から数多くの勅語の解釈書が生まれます。文部省の委嘱により作られた解釈書も多くの批判を受け、公定解釈とはならず一個人の解釈にしかかなりえなかったことが勅語の曖昧さを証明しています。それゆえ、社会情勢や国際情勢の変化により勅語の精神と現実との間に齟齬が生じるたびに、上述の詔勅類により補完され、奉体化が強められることで徐々に絶対性を構築していったといわれています。

こうして戦前の教育において絶大な影響力を持つに至った教育勅語も、敗戦後の昭和23年（1948）、GHQなどの強力な指導のもと行われた、衆議院・参議院両院での教育勅語の排除・失効決議により終止符が打たれました。この決議の際、教育勅語だけでなく、「戊申詔書」や「青少年学徒ニ賜ハリタル勅語」などの諸詔勅類も一括して排除・失効確認が行われたことは、教育勅語と諸詔勅類が一つの体系をなしていたことを意味しています。

### 2 開智学校における教育勅語

開智学校では明治24年1月に教育勅語奉戴式を行っています。

同じ年、「小学校祝日大祭日儀式規定」が定められ、紀元節などの学校儀式において教育勅語奉読が始まります。また、11月には明治天皇が立ち寄ったという特別な由緒から御真影の下賜も行われ、公立学校としてはかなり早い時期から御真影と教育勅語がそろった学校となりました。



絵葉書「御真影拝賀」

明治27年5月に御真影奉護のための宿直が始まり、同年9月には「御真影室」が完成します。



この「御真影室」は現在の旧開智学校校舎2階の明治天皇御座所の部屋に当たります。同時期の学校規則には、御真影と教育勅語は奉納箱に入れて奉安室に安置し、奉納箱の鍵は校長が、奉安室の鍵は宿直員がそれぞれ保管することと規定されています。



奉安宮と奉納箱(年代不明)

明治33年には御真影奉安宮と勅語謄本納箱が完成し、御真影と勅語がそれぞれ奉安されました。同41年に「非常事変ニ処スル心得」が作成され、非常時の際の物品持出し順序の1番目が御真影と勅語となりました。大正時代に目立った動きはありませんが、三大節（元旦

の四方拝、紀元節、天長節）・入学式・勅語奉読式といった儀式の際に勅語奉読が行われています。

昭和9年4月、校舎前庭にコンクリート造の奉安殿が完成し、落成式及び御真影と勅語の奉遷式が挙行されます。その翌月の開智学校の職員会で、奉安殿への礼について話し合わせ、登校と帰校の時だけは立ちどまり礼をし、其他の場合は帽子をとり軽く礼をして通ることが決定されました。その後、開智学校でも極端な神格化が進み、昭和17年12月に作られた「国民学校児童ノ生活指導ニ関スル実践的研究」には、「大東亜の中核をなす皇国民の基礎的錬成をなし、大東亜の指導者としての資質を啓培する」ため、教育勅語の取り扱いから皇室行事を中心とした生活指導の方法、学校行事やしつけに至るまで、事細かに「皇国民の基礎的錬成」のための方法が記されています。この指導の根本精神として勅語は真っ先に取り上げられ、「聖旨を奉体」することが強調されています。また、源池小学校の例ですが、昭和18年の国民科修身指導案に、勅語は「国民の本分」を示したもので「皇国臣民の道はあげて天壤無窮の皇運を扶翼し奉るものである」、「斯の道」の奉体こそ臣民の第一といった言葉が記されています。戦時体制の強化、特に国民学校令施行とともに、教育勅語の神聖化した扱われ方が急激に強まってきました。

終戦間近の昭和20年7月21日、空襲の危険が迫る中、開智学校の御真影と勅語が非公式に鎌田国民学校へ奉遷され、その1週間後には現在の塩尻市の筑摩地村の国民学校へ再度奉遷されます。そのまま終戦を迎えますが、9月24日に当時の一志茂樹校長が御真影と勅語を筑摩地村の国民学校へ取りに行き、再び開智学校の奉安殿に安置されました。

全国的に御真影と教育勅語の返還が進む中、開智学校では昭和21年1月8、9日に御真影奉還式が行われ、御真影がなくなります。同年3月2日に講堂奉安所内の奉安殿が四柱神社へ移され、昭和22年6月22日に旧奉安殿のコンクリート片がトラックで片づけられると、開智学校から御真影と教育勅語とそれに関するものは完全に姿を消しました。

戦争を体験した世代の人たちが、当時の日本の教育における“呪縛”と表現する教育勅語は、開智学校においては、こうした経過を辿っています。

### 3 とある教員の意見書

明治36年、教育勅語が発表されてから12年後、開智学校の教員がこんな意見書を提出しています。

#### 儀式に就いて

児童の徳育には感情の陶冶とうやが重要であるが、学校儀式は感情の陶冶に有効で、大小軽重を論ぜず徳育の一助となる。特に、四方拝、紀元節、天長節のような国家最大の儀式においてより有効な方法を検討すべきであろう。

しかし、我校の本年の四方拝では、生徒隊列は不整頓で年長の児童の笑い声が聞こえ、唱歌は不揃いで間違える者もあり、そればかりか奉安宮の扉の開閉の際に最敬礼をしない者すらいて、終始喧々囂々で寄席きせきのようであった。拝賀式は莊嚴・静肅・各自が赤心をもって尽す様子の3要素がそろってこそ満足な儀式となるが、先日の儀式は徳育に効果があったものであったであろうか。1人の訓導に今日の儀式は誠に遺憾であると伝えると、彼はこれが自然である、活動は児童の天性であるので喧噪は自然のことであると答えた。これらの儀式は貴重な精神的訓練となるので、多くの儀式を設けて教育の効果を補助することがよいのではないか。来る紀元節の拝賀式は充分の研究と努力を以て教育的に価値あるものとしなければならない。(筆者要約)

ここには、教育勅語奉読も行われる四方拝の儀式における様子が記されていますが、厳かであるべき儀式がまるで「寄席」のように騒がしかったと述べられています。また、この教員が儀式中の騒がしい状況を嘆くと、別の教員が“活動は児童の天性なので、この喧噪は自然のことである”と答えたといえます。

教育勅語奉読が行われる儀式に対する三者三様の姿が興味を引きまします。子どもたちは拝礼の意識に欠け、笑い声が聞こえてくるという緊張感のない様子が記され、それを見た教員が嘆いて意見書をしたためるも、別の教員は子どもが騒ぐことに問題を感じていない。意見書をしたためた教員も、騒がしい儀式に対して「<sup>おそ</sup>惶れ多い」という表現を使いますが、あくまでも儀式を徳育教育の一環と捉え、教育的に改善しなければならないとしている点に特徴があります。この三者のスタンスいずれから、第二次世界大戦中のような勅語の神格化された絶対性は見受けられません。

#### 4 教育勅語の絶対化

それでは、教育勅語はいかにして開智学校の中で絶対性を確立していったのでしょうか。明治45年の「訓育綱目」には、「本校の訓育は校訓を以て中心とし之を教育勅語戊申詔書の御趣旨及修身教科書作法と連絡し以て基本的習慣の養成を期せり」と記されています。この綱目に対し、“勅語が校訓の下に従属するのはおかしく、勅語が根本中心で校訓を補助的にすべき”といった意見も出ていますが、開智学校の訓育は校訓（明治31年制定）を中心とすることと決定されました。大正時代になると、前述の教員意見書の類の資料がほとんど残っていないため、勅語がどのように捉



天長節（勅語奉読か）

えられていたかを示す直接的な資料は見つかりませんが、開智学校にも自由教育の空気が流れていたため、絶対性とは程遠い状況であったと推測されます。

このような状況が続きましたが、明治30年代の教員が、天皇陛下の恩に酬いて死して皇城の鎮鬼とならんと欲することを“美と長”とし、こうした意識を持つ子どもを培養するため、忠孝智徳義勇奉公の道を円満に融解して、勅語を中心に修身教授を行うべきと述べているように、早くから勅語の“御趣意を奉戴”し、勅語の定着を図る教員がいたことも見逃せません。明治42年以降、尋常科の最高学年用の修身教科書に教育勅語の訳文が掲載されるようになったことも、その定着に大きな役割を果たしたといえます。しかし、開智学校における勅語の神格化への直接的な要因は、全国的な動向と同じく、満州事変以降の戦時体制の強化と国民学校令施行といえるでしょう。これ以降、修学旅行や学校登山は「鍛練旅行」「鍛練遠足」と名前を変え、翼賛選挙ポスターの作成、出征軍人の見送りなど、学校生活のあらゆる部分が戦争に収められていきます。その中心に存在していたのが、奉読中は姿勢を正して頭を下げ、せきをすることすら我慢しなければならなかったという教育勅語だったことは間違いありません。「寄席」と記された勅語への態度からわずか40年ほどで、勅語は教員と子ども全員を強制的に奉体させるほどの効力を持つに至りました。

この経過が限定的ながらも感じられる資料が各時代の「宿直日誌」です。御真影と教育勅語の奉護のために始まった宿直は、当初から日誌をつけることが規定されており、具体的な様相がわかります。多くの部分は真面目に書かれていますが、明治時代には「何れより来しかあたりの赤鬼め 思ふ事なくて寝られぬ今宵哉 横槍をうけそんじてかずでんどー（台より落つ） 何事もうき世と思へ皆の衆にはさて夜はふけたりな ねるとしよう」といったユーモアあふれる書込みも見ることができます。他にも侵入者が現れた際に読書に夢中だった宿直員の様子や他の教員がやってきて2時間茶を呑み合ったという記載もあります。大正時代になっても、夜学生が集まり騒ぎだしたが、「血のうねる」子どもたちを前に脱兎の態となったと記したり、「昨夜は盗賊が来なかったと思ふ」と校長が見たら不安になるようなことが書かれていたり、奉



護のための宿直中にも気楽な雰囲気が漂っています。

昭和になるとこうした記述は鳴りを潜め、事実のみを記載したページが続き、緊張感が感じられる日誌となります。昭和20年度の宿直日誌は体裁を大きく変え、それまで「校内 異常なし」程度しか書かれなかった見回り記録が、「奉安殿奉護」と「巡視状況」に分けられ、奉護の責がより強くなっています。終戦の8月15日以降も宿直日誌は続いています。御真影と勅語が学校にない時期も奉安殿奉護の欄に状況が記載され、女鳥羽川の増水時には校長室に「奉安する」といったことも行われています。しばらくは「御異常を拝さず」という言葉が使われることも多く、教員の中に奉護の観念が残っている様子が表れています。



校舎前庭の奉安殿

## 5 教育勅語の影

教育勅語は、終戦直後まで日本の教育を縛り続けた、近代教育史の中で最も象徴的な存在といえるでしょう。しかし、その効力は各時代で異なる様相を見せ、開智学校においても絶対性を獲得するまでは長い時間がかかりました。極端に神格化された絶対性を持っていたのが、渙発から廃止に至る約60年の内のおよそ10年間で、それも諸詔勅類に支えられてのものだとすると、注目すべきはその効力を絶対化させた手法なのかもしれません。

わずか315文字の文章が、いかにして絶対的な存在となっていたのか――

教育勅語という大きな影の下に、その性質を捉えるための重要な手がかりが隠れているのではないのでしょうか。研究者の間でも、教育勅語の各時代の実態を捉えた上での本質の理解の必要性が早

くから指摘されていましたが、今後も、開智学校における教育勅語の実態の調査を続けていきたいと思っています。

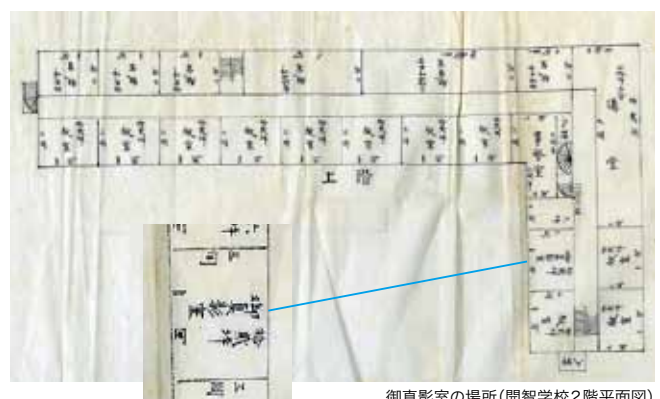
(重要文化財旧開智学校校舎 / 学芸員 遠藤正教)

### 【参考文献】

- 佐藤秀雄編『統・現代史資料9 教育 御真影と教育勅語1』(オンデマンド版 みすず書房、2004年)
- 「史料開智学校」各巻

### 年表 開智学校と教育勅語

明治24年	教育勅語奉戴式・御真影奉戴式
明治26年	照憲皇后御真影奉戴式
明治27年	御真影奉護のため宿直開始 御真影室完成
明治31年	校訓「愛正剛」制定 ※校訓は、職員が異動しても訓育方針を統一するため、また、勅語の趣意は広大にして却て実行貫徹の機会を捕捉し難きため、縮めて具体的にした校訓を制定した～
明治33年	御真影奉安宮、勅語謄本納箱など完成
明治後期	※教員の中で、訓育は校訓を中心とし勅語を補助的に扱うという意見や、勅語が根本で校訓が補助的だ、といった意見が混在 ※勅語奉読を含む儀式中に、児童が騒がしく最敬礼を怠ることがあるため、改善しなければならぬという職員意見
大正4年	大正天皇御真影奉戴
大正5年	皇太后陛下御真影奉戴
昭和3年	昭和天皇・皇后陛下御真影奉戴
昭和9年	コンクリート造の奉安殿落成 この頃、奉安殿前通行時の礼が始まる
昭和20年	7月に御真影・勅語を市外の学校へ疎開 9月24日 御真影・勅語奉遷
昭和21年	1月に勅語奉遷式
昭和22年	講堂奉安所内の奉安殿を四柱神社へ移す 旧奉安殿のコンクリート片を片づけ



御真影室の場所(開智学校2階平面図)

## 馬場家住宅開館20周年記念特別展

## 「馬場家住宅20年の歩み」

## 1 馬場家の歴史

馬場家住宅のはじまりは、戦国時代に松本平を支配していた甲斐（山梨県）の武将武田信玄の家臣馬場信春の縁者が、天正10年（1582）の武田氏滅亡後に内田地区に構えた屋敷であるといわれています。以後、江戸時代には諏訪高島藩領となりました。幕末から明治期にかけての12代当主の治左衛門の時代に、現存する本棟造りの主屋の他、壮大な表門などの建物群が整えられました。



馬場家住宅全景

## 2 馬場家住宅の危機

明治33年（1900）、14代当主の啓助の時代に、一家を挙げて上京すると、馬場家住宅は当主不在の状況になりました。これが幕末期に建てられた建物が大きな改変を受けることがなく現在まで残された要因でもありました。昭和18年（1943）に、外交官として活躍していた15代当主の称徳が戦火を避けてこの地に戻ってきましたが、戦後の農地解放などの影響もあり、広大な屋敷の管理は難しくなっていたのだろろうと思われま

## 3 馬場家住宅を残す

昭和の終り頃から、馬場家住宅を保存しようという動きが盛んになってきて、日本ナショナルトラストや「馬場屋敷の保存と活用を考える市民の会」などによる運動がありました。そうした中、松本を離れていた現在の16代当主の太郎氏が帰松した平成3年（1991）に、同氏から保存活用のために寄附の申し出があり、翌年に屋敷地の西半分とそこにある建物群が寄附されました。松本市は文化庁・県の指導を得て整備計画を策定し、平成5～7年度に第1期修理を実施、平成8年には国の重要文化財に指定されました。馬場家住宅を残そうという市民の思いは、一つの結実点に達したといえます。

## 4 松本市立博物館分館馬場家住宅

馬場家住宅は重要文化財に指定されましたが、当時すでに文化財を保存するだけの時代は終わったといわれていて、その活用についても考える必要がでてきました。松本市はその答えとして、博物館施設にするという選択をしました。そして、平成9年に馬場家住宅は松本市立博物館附属施設

（現在は分館）となりました。それから20年、馬場家住宅には多くの方が訪れています。また築160年以上の古民家建築を活かした、七夕などの四季折々の伝統的な行事の情景展示を行ってきました。その他に、活用のための事業も行われています。例えば現在も続いているお茶席の会では、毎回多くの参加者が、当館のキャッチフレーズでもある、「どこか懐かしく、どこか新鮮」を感じながら、古民家でのひと時を過ごしています。



お茶席の会

## 5 馬場家住宅を未来へ

馬場家住宅には、これからの時代を担う子どもたちも多く訪れます。地元の保育園での遠足、小学校での「昔の暮らし」の授業、総合学習の一環「チャレンジ明善」で床を磨く中学生たち。彼ら



「チャレンジ明善」の中学生

の中には、将来、故郷を離れて別の町で暮らす人がいるかもしれません。でも、子どもの頃馬場家住宅の畳の上で寝転がり、楽しく遊んだという記憶はずっと残ると思うのです。そして、彼らがまた故郷に戻ってきたときに、単に楽しかったという記憶だけでなく、改めて文化財保護や伝統を残し伝えることの大切さに気付いてもらい、自分の子どもにもそんな体験をさせたい、残したいと思ってもらえるような馬場家住宅として、これからも守り続けていきたいと思

います。これまで20年、これから20年、いやもっと先まで。

（重要文化財馬場家住宅 / 学芸員 澤柳秀利）

## 馬場家住宅開館20周年記念 馬場家住宅20年の歩み

【会 期】9月16日㊦～11月12日㊦ 月曜休館（休日の場合は翌日）

【会 場】重要文化財馬場家住宅 主屋

【料 金】通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）

## 記念講演会「馬場家住宅の魅力とそれを支えるもの」

【日 時】9月30日㊦ 午後1時30分～3時

【会 場】重要文化財馬場家住宅 主屋

【料 金】通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）

【講 師】西澤泰彦氏（名古屋大学大学院教授）



窪田空穂記念館 Tel.0263-48-3440

## 企画展「若き君たちへ ～校歌 空穂からの贈りもの～」

日本のほとんどの学校には校歌があります。校歌には学校の教育理念や校風、地域の歴史や風土などが盛り込まれ、学校を象徴するものとして大切にされてきました。

窪田空穂は、日本各地の小学校から大学まで、16校の校歌を作詞しています。いずれも空穂を師として慕う人たちが、その業績を誇りに思う郷土や地元の人々の篤い思いに快く応え、若者たちのために心を込めて作られたものです。

今展では、窪田空穂が作詞した校歌を、楽譜などの資料やエピソードとともに紹介します。また、実際に校歌を歌っている様子も映像でご覧いただけます。空穂が、校歌をとおして若者たちに贈ったメッセージを感じていただければ幸いです。

(窪田空穂記念館／学芸員 小暮洋介)

[会期] 9月16日(土)～11月26日(日) 月曜休館(休日の場合は翌日)

[会場] 窪田空穂記念館 会議室

[料金] 通常観覧料 (大人 300円、中学生以下無料)



旧和田小学校校歌碑(和田歌碑公園)

## 講演会「高校生と詩歌の間」

[日時] 10月14日(土)午後1時30分～3時

[会場] 窪田空穂生家(記念館向かい)

[講師] 六川宗弘氏(長野高等学校教諭)

[料金] 無料

[申込み] 電話で窪田空穂記念館へ

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

## 子規忌展

子規忌とは、9月19日、明治の俳人・歌人である正岡子規の命日です。

松本出身の歌人・民俗学者である胡桃沢勘内(1885～1940)は、文学・民俗学にかかわるさまざまな資料を収集・保管していました。松本市立博物館には、現在、勘内の蒐集した資料「胡桃沢コレクション」が1万3,000点以上収蔵されています。

歌人でもあった勘内は、正岡子規を敬愛し、子規門下である伊藤左千夫に師事しています。胡桃沢家では毎年、子規忌に子規の像と掛軸を飾り、故人を偲んできました。コレクションを受け継いだ博物館でも、毎年子規忌にあわせ、資料の展示を行っています。今年は、正岡子規の生誕150年を記念して、コレクションの中から正岡子規に関する資料を展示いたします。どうぞご覧ください。

(松本市立博物館／学芸員 丸山和子)

[会期] 9月9日(土)～24日(日)

[会場] 松本市立博物館 1階ロビー

[料金] 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)



子規像

## 関連事業 復活 話をきく会「子規と左千夫」

[日時] 9月9日(土)午後1時30分～3時(予定)

[会場] 松本市立博物館 2階講堂

[講師] 復本一郎氏(国文学者・神奈川大学名誉教授)

[料金] 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)

[申込み] 松本市立博物館へ

考古博物館 Tel.0263-86-4710

## 秋季企画展「城と館が語る中世の松本」

中世に信濃守護としてこの地域を統治していた小笠原氏の城館が、井川城や里山辺林地区にあった頃の松本の様子を、考古資料とパネル写真で紹介いたします。

(松本市立考古博物館／学芸員 大島浩)

[会期] 9月16日(土)～11月26日(日) 月曜休館(休日の場合は翌日)

[会場] 考古博物館第2展示室

[料金] 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)



林山腰遺跡出土品(15世紀末～16世紀初頭の瀬戸製品)

# 9月21日は「松本市博物館の日」です!

9月21日(木)は、「松本市博物館の日」です。明治39年(1906)9月21日、松本市立博物館の前身である「明治三十七、八年戦役記念館」が松本尋常高等小学校(開智学校)男子部内に開館したことを記念して、平成11年(1999)に制定されました。

記念館は日露戦争の記念品を展示することを目的として建設されましたが、当初から軍事関係以外の収蔵品も多く、総合的な博物館としての発展も期待されていたと思われます。

明治40年2月には「松本町に<sup>そび</sup>聳えたる 天守に続く記念館 今は都の空とほく 雲の上まで聞えたり」で始まる『明治三十七、八年戦役記念館唱歌』が作られ、小冊子が高美書店から発行されました。テーマソングまで作成するほどの、当時の人々の博物館に対する期待が感じられます。

その後、記念館は「松本博物館」「日本民俗資料館」などと名称を変え、分館を加えながら現在に至りま

すが、市民が郷土の文化財を大切に思う心は変わらず引き継がれています。

今年も、9月21日は、松本まるご

と博物館の全施設の無料開館を実施します。ご来館いただいた方に記念オリジナルグッズを配布します。また、各館では、クイズラリーや、普段は公開をしていない資料や建物の特別公開などを行います。

ぜひ、この機会に博物館の楽しさを再確認していただきたいと思います。

(松本市立博物館/学芸員 赤羽裕幸)



昭和時代の記念館

## ガイドコーナー はんでんぼく

### 旧開智学校から ☎0263-32-5725

#### 講座「近代建築 まちなか見学会」

松本市の中心部に残る近代建築を、建築士の方たちの案内でめぐります。

日時 9月30日(土)午前9時30分～

集合場所 松本市立博物館前

定員 20名

料金 無料

講師 荒井洋氏、藤松幹雄氏、米山文香氏(3氏とも建築士)

申込み 9月8日(金)から電話で旧開智学校へ  
※3時間ほどの屋外での徒歩見学会です

### はかり資料館から ☎0263-36-1191

#### 企画展「今昔はかり展」

はかり資料館が所蔵するはかりの中から、「量る」道具を紹介します。

会期 10月27日(金)～11月26日(日)

会場 はかり資料館

料金 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)  
※計量記念日に近接する11月3日(祝・金)は、無料開館となります

### 重文馬場家住宅から 一開館20周年記念事業 ☎0263-85-5070

#### 開館20周年特別展開連事業 ギャラリートーク

日時 9月23日(土)  
午後1時30分～2時30分

会場 馬場家住宅主屋

定員 30名

料金 通常観覧料

講師 宮嶋洋一氏

問合せ 馬場家住宅へ

#### 昔の遊び体験講座

日時 10月7日(土)、28日(土)

午後1時30分～3時

会場 馬場家住宅主屋周辺

料金 通常観覧料

講師 寿里山の会・鉢伏牛伏友の会

問合せ 馬場家住宅へ

#### 布ぞうり作り体験講座

オリジナルの布ぞうりを1足作ります。自分だけの作品を作ってみませんか。

日時 9月9日(土)、10月14日(土)

午前10時～午後3時

見学地 馬場家住宅主屋

定員 10名

料金 1,800円

申込み 電話で馬場家住宅へ

#### バス見学会

南信地方の古民家を巡るバス見学会です。

日時 10月15日(日)

午前8時～午後5時

見学地 駒ヶ根市竹村家住宅ほか

定員 20名

料金 1,000円

申込み 10月1日から電話で馬場家住宅へ

### 時計博物館から

☎0263-36-0969

#### 巡回展「國學院大學～学びへの誘い～」中止のお知らせ

9月9日(土)～9月24日(日)で開催予定だった巡回展は主催者の都合により中止となりました。ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

## あとがき

博物館は未来を考えると教わりました。未来を考えるため、過去にあったことをありのままに伝えることが大事であるとも。

資料を通して過去の出来事を今につなげて、それを未来へつなげていく。その橋渡しを担える学芸員となるために日々研鑽あるのみです。(M・E)

## あなたと博物館 No.212

発行年月日/平成29年9月1日

編集・発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL: <http://www.matsu-haku.com>

e-mail: [mcmuse@city.matsumoto.lg.jp](mailto:mcmuse@city.matsumoto.lg.jp)



印刷 川越印刷株式会社